

## Asian Diversity by ASNET No.10

### 「日本・アジア学」講義紹介 『アジアの環境研究の最前線』

アジアで発生している環境問題とそれに関わる最新の研究成果を、東京大学の若手研究者10人の協力を得ながらオムニバス形式で学びました。

講義では、アジアの生物多様性や森林伐採、水汚染、化学物質、食環境、大気汚染、土地荒廃、グリーンツーリズムなどをテーマに、まず、各国のフィールドで調査・研究を展開されている研究者の話を聞きました。そのあと、学生からの質問も受け付け、先生方も親身になって答えました。

この科目は、全学研究科等横断型教育プログラムということもあり、学生の専攻も工学系、新領域、農学、法科大学院など多岐に渡っていました。そのため、学生たちの質問もそれぞれの専門に関わるものが多く、最後の議論はいつも盛り上がりました。

講義の最終回には、有機農業で地域活性化を進める埼玉県小川町に見学に行きました。

化学肥料や農薬を使用せず、バイオガスや太陽光などの自然エネルギーを最大限に生かしながら農業を続ける農家の姿に、これからの日本の農業の進む道を見ました。また、無農薬米で醸した純米吟醸酒(冷酒)もたいへんおいしく試飲しました。



無農薬の大豆づくりを見学する受講生

文・写真: 卯田宗平

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET機構)は、研究者や学生が分野を超えて繋がり、アジアに関係する教育や研究の新たな可能性を探るために設立された東京大学の機構です。

アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURL:

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

ASNET機構

検索

Relay Column

## ワタシのオシゴト / 第66回

Rings around the UT

生産技術研究所 試作工場 技術専門職員

西山 祐司さん

### ものづくりの現場



マシニングセンタ(工作機械)前にて

試作工場では研究実験に必要な装置や部品などの設計、製作を行っています。金属加工を中心に、ガラス加工、木工加工なども行っています。生研からの注文が主ですが、新領域や教養学部など他部局からの注文も受けています。特にガラス加工は他部局からの注文が多いです。また、東京ミッドタウンなどで展示されたアート作品、学生フォーミュラの部品、鳥人間コンテストの飛行機部品なども製作することがあります。現在の工場職員数は13名ですが、再来年度までに4人の方が定年や再雇用期間終了で退職されます。これからも、ものづくりを担う技術者は必要だと考えますので人員確保は必須です。

高校生の時はオートバイ、大学時代は自動車部に所属し車が趣味でしたが、東京大学に採用されて以来、テニスに興味になり、週末はテニス三昧です。



駒場リサーチキャンパスのテニスメンバーです  
(他にも沢山いらっしゃいます)

得意ワザ: 突き球(テニス)

自分の性格: スペック検索好き

次回執筆者のご指名: 塚田博明さん

次回執筆者との関係: 旧原子核研究所時代の  
ツーリング仲間

次回執筆者の紹介: また伊豆ツーリングに  
行きたいですね!